

豊



友

発行
自衛隊札幌病院
豊友会事務局第78号
令和8年8月

「情報発信」

自衛隊札幌病院長

陸将 菊池 勇一

ること。二つ目は参加されるOBやご来賓の方々に当院の威容を示すこと。三つ目は、1年間の活動を振り返り、その内容をご理解いただくことです。最近では、自衛隊全体として訓練などの隊務が増加し、このような行事は縮小傾向にあります。当院としては上記の目的を達成すべく、今後も継続していく所存です。

活動状況の理解を得ることの重要性は年々増しています。現在、戦略3文書の改訂が進められていますが、自衛隊のみで完結できるものは少なく、同盟国・同志国との連携、関係機関や地域の皆様の協力は必須です。特に医療においては地域連携が重要です。この連携を促進するために、自衛隊病院や自衛隊衛生が普段、どのような活動を行っているのかを我々から発信、アピールしていくことが必要と考え、当院ホームページを充実させるとともに6月にはSNSを開設しました。当院は通常の診療においても強みを有している面がありますし、地域ニーズの高い災害や感染症対処のための訓練等も定期的実施しています。この状況も認知されなければ連携強化には結び付きません。一方で、常に見られているという意識が芽生えれば、我々のやりがいと誇りにも繋がります。当院の存在価値をさらに高めるためにも今後も情報発信に努めてまいりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

豊友会の皆様には、日頃から当院の活動に対するご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。去る6月13日に、皆様のご協力のもと当院の創立記念行事を執り行いました。今年は創立71周年ということで節目の年ではありませんが、この行事には3つの目的があると考えています。

一つは、当院職員の士気と団結心を高揚す

「人の生活を豊かにする
技術革新を願って」

自衛隊札幌病院豊友会

会長 今井 智仁

今年の夏も全国的には恐ろしいほどの暑さになっています。札幌で生活できていることにありがたみを感じています。皆さまいかがお過ごしでしょうか。

昔は北海道でクーラーなんてと思っていましたが、昨今は逆にクーラーがないなんてと思ってしまいます。気候の変化

もありますが、世の中がより便利になってきたということなのでしょう。

昨今の技術革新は驚くほどの速さで進んでいるように感じます。大学を卒業したての40年前は留守電機能からポケベルの時代。そして携帯。今やスマホとあの頃には想像もつかなかった時代になっています。また官舎に住んでいたころには夕方や休みの日には小さな子供たちが多く走り回っているのが当たり前でしたが、最近では子供が外で走り回っている姿をほとんど見かけなくなりました。生活環境も変化しているのですが、彼らがわれわれの世代になったころの世の中が一体どうなっているのか想像もつきません。国もAI分野に対して100兆円規模の投資を行うというような報道もあり、おそらくAIの時代であろうことは間違いなさだと思います。ただ、最近、強く思うことがあります。これらはすべて、人の生活を豊かにすることが大前提になっているはずです。つまり人が主であるべきと言うことです。医療の現場でもデジタル化は加速度的に進んでいますが、気が付くと人がモノに振り回されている気がしています。カルテ等も電子化されていますが、器械に合うやり方をしなければまったく受け付けてすらもらえない。現場では患者に向き合うより器械に対応することの方に注意が向けられている気がします。システムが変わるたびに対応の変化を求められ、患者に触れる時間よりキーボードに触れている時間の方が多くなっています。器械は利用するものであるべきで、人のニーズに合わせていくべきものではないのかと感じます。むしろこういうところにAIが導入され、器械と人の隙間を埋めて行って欲しいものです。

《行事紹介》

創立 71 周年記念行事

自衛隊札幌病院は、令和8年6月13日（土）真駒内駐屯地において創立71周年記念行事を執り行い、北海道医師会常任理事をはじめ、豊友会会長、札幌地方隊友会長、北海道防衛局長、北部方面医務官、北部方面衛生隊長、歴代病院長等、部内外から多数のご来賓の御臨席を賜った。記念式典においては、これまで当院に積極的な御支援・御協力いただいた部外講師及び病院モニターに対し、病院長より感謝状を贈呈するとともに、記念会食、開院71年の歴史展示、家族向け施設見学等を行った。

菊池病院長は、式辞で「創立71周年記念式典を挙行できますことは、医師会、豊友会や隊友会をはじめとする関係諸団体の皆様や地域住民の方々のご理解とご協力、そして歴代病院長等、諸先輩方のご尽力の賜物である。」と深く感謝した上で、「今日の日を機に先人の努力と足跡を改めて振り返り、その意思を引き継ぐとともに、情勢変化も踏まえ、今、ここで勤務する我々に何が求められ、何をなすべきなのか一人一人が真剣に考え、当院がさらに活性化し多くの方々から信頼されるよう業務に邁進していこう。」と将来を見据えた決意を述べた。

自衛隊札幌病院は、これからも職員一同心を一つに隊員及び国民・道民・地域の皆様とともにある「心の通う信頼される病院」を目指し万全を期していく。



式辞（病院長）



国旗に対し敬礼



家族向け施設見学



歴史展示



記念撮影

《訓練紹介》

令和 8 年度自衛隊札幌病院DCS訓練

自衛隊札幌病院は、令和8年5月19日（火）から20日（水）の間、DCS（ダメージコントロール手術）集合教育の教官である内野1佐（衛生学校）の支援を受け、病院として初のDCS訓練を実施した。本訓練は、DCS班要員の養成及び技術向上を図ることを目的とし、当院のDCS班をはじめ、北部方面衛生隊、各師・旅団衛生隊等から合わせて42名が参加した。病院長は、訓示の中で「本訓練を通じて、各部隊が保有するDCS班の技能を斉一化するとともに、参加している隊員は今回の訓練で得た成果を今後の部隊訓練等にも反映し、方面隊全体の練度向上に努めてもらいたい。」と述べた。

訓練一日目は、機能別訓練として、外傷初期診療、術中看護及びICU看護の講義、展示及び実技指導を看護部が担当して実施した。参加者は各部隊の代表として高い意識をもって受講し、不明な点等があれば積極的に指導部に疑問等を投げかけていた。続いて、DCS教官である内野1佐から「外傷診療総論」と「外傷蘇生」の講義があり、聴講した病院職員及び各部隊の隊員一同、その講義の内容に深く感銘を受けていた。

訓練二日目は、屋外においてシナリオ訓練を実施した。はじめに患者が搬送され、オスキーの状況付与により術前処置が施され、DCS班へ申し送るという一連動作を訓練した。続いて手術システム車において、ハイブリッドシミュレーターを用いた状況を付与し、開腹から応急止血、汚染制御、一時閉腹までのDCSを演練した。手術システム車の外では、カメラによる映像がモニターに映し出され、それを車外にいた訓練参加者が真剣な眼差しで研修していた。

本訓練を通して、チームワークの重要性を認識するとともに、各部隊ごとの知識・技術のばらつきは大幅に縮小し、DCS班の練度の向上と斉一化を図ることができた。

自衛隊札幌病院は今後も、人材育成拠点として当院職員の技能向上のみならず方面隊の内外を問わず衛生科隊員の人材育成に更に貢献していく。そして今後、いつ、いかなる任務が付与されようとも即応し最後まで成し遂げられる組織を引き続き創造していく。



人工呼吸器管理



術前処置



記念撮影

豊友会写真便り

自衛隊札幌病院創立70周年を記念した桜が、隊員や地域住民の皆さまの温かい見守りの中でしっかり成長しています。

「組織の歴史がしっかり根付き、未来へ引き継がれますように」願いを込めて。



● 記念植樹

令和7年6月14日に植えた
エゾヤマサクラの苗木

● 現在の様子

青葉を茂らせて
着実に成長

● 今後の願い

美しい花を咲かせる
シンボルへ

※ 写真左から、
25代上部病院長、24代千先病院長、27代鈴木病院長

《SNS公式アカウント紹介》

自衛隊札幌病院公式アカウントを開設しました。

地域の皆さまに身近に感じていただける『心の通う信頼される病院』を目指し、診療情報や各種イベント・取り組みなどを発信していきます。

＜SNS開設の目的＞

- ① 病院事業及び各部等の活動を地域の方々だけでなく、日本国内・外のあらゆる人々へ発信する。
- ② 基本理念である「心の通う信頼される病院」を効果的に発信し、部内外に対し浸透を図る。
- ③ 病院利用率の向上を図るとともに、職員の誇り・やりがいを醸成し、医療の質的向上を目指す。
- ④ 各種緊急時において迅速に病院情報を発信する。

以上4点を目的として、情報を発信していきます。皆さまのフォローをお待ちしております。



自衛隊札幌病院、福岡病院オープン化への思い出

臨床を目指す医師は、医学部卒業後、多くの症例を経験し自信をつけてより良い治療を患者さんにしたいと願っている。入局したばかりの時に教授に「鉄は熱いうちに打て」と言われ、若い時に意欲的に勉強することの重要性を教えられた。一般の医学部では大学病院、関連病院で十分に研修できるシステムはできている。

しかし、防衛医大卒業生は2年間大学や中央病院で臨床経験できるが、その後、部隊や地区病院では満足な経験はできなかった。そのため卒後9年の義務期間を待たず早期に辞めていく卒業生が後を絶たなかった。

地区病院のオープン化の希望はあったが、特殊な富士病院以外は実現は難しかった。その現状の中、2005年2月当時の防衛庁長官が「地区病院もオープン化を考えないといけない時期か」との発言が新聞にベタ記事として載った。その記事を読んで私は、福病の総務部長とともに、福病のオープン化に向けてダメ元で慌ただしく動きだした。それは、このままでは近いうちに熊病に統廃合されるという危機感を持っていたからだ。

まず、医師会と数軒の近医を回ったが、オープン化への警戒からか冷たい反応だった。しかし、県、市議会議員、県保健福祉部長、父兄会、OB会、地元の国会議員と働きかけ、その結果を陸幕に報告していた。

2005年4月、私が東京の学会から帰ろうとした日、防衛庁内局から陸海空の主たる病院長に「急遽集合せよ」と連絡が入り、私は防衛庁に直行した。何事だろうと思い内局の会議室に入ると広いテーブルの各席上に数枚の資料が置かれていた。それは、これまでの福病のオープン化への働きかけをまとめたものだった。局長は各病院長に「この福病の資料を参考にオープン化に向けて行動してください」と檄を飛ばされた。

福病に帰り、最大の難関、医師会との交渉を重ね、苦労はあったものの2006年2月には協定書の同意までたどり着けた。残念だが、9月のオープン化直前に私は札幌病に転勤となった。

札幌病に就任直後の8月20日、札幌医師会を訪れ自衛隊病院のオープン化の話をする、会長は「札幌病もオープン化して救急当番にも参加してほしい」と実に友好的だった。そのため、職員皆協力して事は順調に進み、2007年2月1日札幌病のオープン化が実現した。

その日の私の日記には「札幌病のオープン化なる。市中の病院と比べられると厳しい評価も覚悟すべし。OBにはおらが病院と親しまれ、一般にはさすが自衛隊病院と頼られる病院を目指してほしい」と記した。

来年はちょうどオープン化して早いもので20年になる。



第22代病院長
陸将 西川 博



※ 旧自衛隊札幌病院（豊平駐屯地）

豊友会事務局便り

事務局長 松下 修

1 事務局長挨拶

豊友会会員の皆さま、日頃より当会の活動を温かく支えていただき、心から感謝申し上げます。

このたび、令和8年度より事務局長を務めさせていただくことになりました松下です。若輩者ではございますが、諸先輩方のご指導のもと、豊友会のさらなる発展と会員相互の親睦に努めてまいります。

近年、安全保障環境の変化や災害対応の重要性が高まる中、自衛隊への期待は日々大きくなっています。自衛隊の衛生分野においても、自衛隊中央病院への准看護学院の新設、医療拠点の整備といった戦傷医療への対処能力の強化をはじめ、SNSなどを活用した情報発信、隊員の処遇改善など、さまざまな前向きな取り組みが進められています。これらは自衛隊札幌病院のOB・OGとして大変心強く、また誇らしく感じております。

これからも会員の皆さまとのつながりを大切に、楽しく有意義な交流ができるよう活動してまいります。引き続き、当会へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに、会員の皆さまのますますのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げご挨拶とさせていただきます。

2 活動状況等

(1) 各会議等

事務局会（1～2ヶ月に1回）、役員会（2026.4.5）、総会（2026.6.13）を実施いたしました。

(2) 会誌「豊友」の発行

新年号（第77号）・夏号（第78号）を発行しました。

(3) 慶弔等

記念品贈呈（長寿のお祝い米寿1名・傘寿1名、R8年春の叙勲4名）を行いました。

(4) 親睦・交流活動

2026年1月21日「北部防衛衛生学会意見交換会」への参加、6月13日自衛隊札幌病院との共催による「創立記念祝賀会・豊友会親睦会」を開催、7月22日「真駒内駐屯地夏祭り」に参加し親睦を深めました。

3 会員資格

〔会 員〕自衛隊札幌病院に勤務、教育入校したことのある自衛隊退職者（職種は問わない。）

〔賛助会員〕前号以外の者で、本会の目的に賛同し、会長が適当と認めた者

※ 札幌病に入校経験のある方など広く会員を募集しております。お問い合わせは下記メールアドレスまで。

4 連絡事項

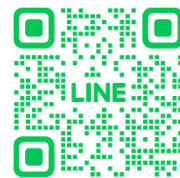
(1) メール等による情報配信について

当会では、会員の皆さまへの迅速な情報伝達と、コスト削減による会費の有効活用を目指し、出来る限りメール等による連絡を進めております。つきましては、大変お手数をお掛けしますが、ご登録がまだの方またはメールアドレスを変更された方は、ご本人確認のため、氏名を明記のうえ、下記メールアドレスに、ご送信いただくようお願いいたします。

☆ 豊友会メールアドレス：[houyu20070619@gmail.com](mailto:hoyu20070619@gmail.com)

豊友会会員の皆さま向けにLINE公式アカウントも開設しております。

スマートフォンのアプリ「QRコードリーダー」からQRコード⇒を読み取っていただき、友達追加してLINE公式アカウントにご参加ください。



(2) 豊友会誌への記事投稿についてのお願い

会員の皆さまからの掲載記事を募集しております。

内容は、A4用紙1枚程度を目安に、趣味のお話やこれまでの経験談、職場のご紹介、会員間の交流、回顧録など、ジャンルは問いません。皆さまの思いや情報を発信する場として、ぜひご活用いただければ幸いです。投稿記事は、豊友会メールアドレスまでお送りください。多数のご投稿をお待ちしております。

(3) 会費の納入について

年会費は、2,000円となっております。新年会・懇親会等に参加される方は、当日、会場にて現金払いでもお受けいたしますが、会費は、可能な限り次の口座へお振込みくださいますようお願いいたします。

金融機関名	ゆうちょ銀行
口座種類	普通貯金
郵貯銀行から	記号19090 口座番号21181151
他の金融機関から	店番908 口座番号2118115
口座名義（フリガナ）	自衛隊札幌病院豊友会（ジエタイサッポロビョウインハウユウカイ）

※ お振込みの際は、依頼人名の欄にご自身の氏名を必ずご記入ください。また、振込手数料は会員様のご負担でお願いします。